

平成 29 年度第 2 回
広島大学平和科学研究センター主催国際シンポジウム

「復興と平和構築」

本稿は、2017 年 11 月 18 日に開催した広島大学平和科学研究センター主催の国際シンポジウム「復興と平和構築」の論文集である。シンポジウムでは、UCLA 芸術・建築学部、Paul I. and Hisako Terasaki 日本研究センター所長の阿部仁史教授による基調講演が行われた。続いて、広島大学の西田恒夫・学長特命補佐（平和担当）・平和科学研究センター名誉センター長、高麗大学グローバル平和と民主主義研究所長・日本研究院の朴鴻圭教授、並びに、欧州対外行動庁（EEAS）文民活動本部のケイト・フィアロン（Kate Fearon）氏による講演が行われた。その後、平和科学研究センター副センター長、広島大学大学院国際協力研究科副研究科長の片柳真理教授がモデレーターを務め、これら発表者 4 名全員によるパネルディスカッションが持たれた。シンポジウムを通して、東日本大震災における建築を通じたコミュニティ復興への取り組み、国際社会における復興と平和構築の分野で日本が行い得る貢献、和解にはたしうる一般の市民の間の対話の可能性、北アイルランド平和構築プロセスにおける女性の権利等のより幅広いアジェンダの包摂などについて活発に議論された。

友次 晋介

広島大学平和科学研究センター准教授